



校長室だより

2026年2月24日

丹波市立進修小学校

校長 松田 亜矢

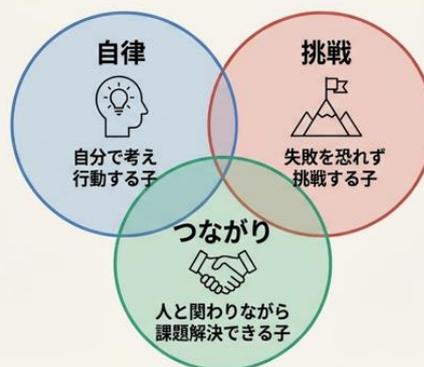
「自律・挑戦・つながり」を合言葉に、 みんながつくる、みんなの学校へ

日頃より本校の教育活動への温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。先日3月4日(水)に開催されました「学校運営協議会」において、地域住民や保護者の代表である委員の皆様から、今年度の学校評価に基づいた貴重なご意見をいただきました。学校運営協議会委員の皆様、1年

間ご協力いただきありがとうございました。その内容をご報告するとともに、来年度に向けた本校の改善の方向性をお伝えいたします。

私たちが目指す児童像

ふるさとを誇りに思い、人とかかわりながら、自ら考え行動する



今年度の成果：高まる「学ぶ楽しさ」と「地域の絆」

今年度の自己評価では、「学校に行くのが楽しい」と感じる児童が85.4%（前年度比2.6%増）に達しました。特に対話や協働を重視した「自由進度学習」への取り組みにより、「友だちと学ぶことが楽しい」と答えた児童は90.4%に上っています。また、保護者の皆様の意識も大きく変化しました。「地域の方と子どもが学習している」と感じている割合が昨

年度より25.7%も増加し、7割を超えたことは大きな成果です。ホームページでの発信や学校公開の充実、家庭での会話を通じて、学校・家庭・地域が一体となった「地域とともにある学校」への歩みが着実に進んでいます。

「主体的な学び」の進化

90.4%

(+3.3%)

友だちと学ぶことが楽しい



要因：自由進度学習への取り組み

全学年での導入により、自己調整と協働による課題解決が定着しました。

見えてきた課題：自発的な「挨拶」と「粘り強く考える力」

一方で、委員の皆様からは厳しい、かつ温かいご示唆もいただきました。

挨拶の活性化：自分から挨拶をする児童が69%に減少しており、声の小ささも指摘されました。冬の寒さも一因かもしれませんが、地域の行事等で顔見知りを増やし、「信頼関係に基づく自然な挨拶」を育てていく必要があります。地域の行事にはたくさんの子どもたちが参加したようで大変喜んでいただきました。



思考の過程を大切に：粘り強く取り組む姿勢が若干低下しています。ネット検索などで即座に答えを求めるのではなく、「答えを導き出すまでの過程や解釈」を大切にし、書くことを通じてじっくり考える力を ICT も活用しながら育ててほしいとの助言をいただきました。

来年度の方向性：安心があるから挑戦でき、自律が育つ

これらの評価を受け、令和8年度は「自ら考え 行動し よりよく生きようとする児童の育成」を新たな目標に掲げます。

- 1. 安心と挑戦の学校文化：**すべての児童に「安心できる居場所」を保障し、失敗を成長のチャンスと捉える「挑戦と失敗が肯定される学級風土」を築きます。
- 2. 主体的な活動の推進：**児童による「あいさつ運動」や「縦割り班活動」を活性化し、子どもたちが主体となって学校を創る場を広げます。
- 3. 多面的な見守り体制：**「チーム担任制」「教科担任制」を充実させ、教職員がチームで一人ひとりの変化に気づき、対話を通じて子どもたちの自己決定を支えてまいります。

「安心」があるから「挑戦」でき、その積み重ねが「自律」へとつながり、地域との「つながり」の中で子どもたちは大きく成長します。来年度も、地域・家庭の皆様と共に、子どもたちの輝く未来を育てていきたいと考えております。引き続きのご協力をお願い申し上げます。